



■ 「当たり前」を見つめ直す時機③

秋は努力の成果が表れる季節です

夏に積み重ねた学習や部活動、友人関係での努力は、今、プラスの結果として現れています。一方で、やらなかつたことはマイナスに影響することもあります。だからこそ、今は一人ひとりがその調整を行う大切な時期です。しかし最近、全体として授業や学校生活の秩序が乱れる場面が見られます。安心・安全を脅かす行動や、周囲を困らせる行動については、学校としてしっかり問い合わせ直します。そして、「どうしたらよいか」と一緒に考えていきます。

「なぜ注意されるの?」と思うとき

「自分は普通にしているだけなのに、なぜ言われるのだろう」と感じることもあるでしょう。客観的に自分を見つめるのは難しく、行動の修正につながりにくいこともあります。

背景には、「認められたい」「見てほしい」という気持ちがあるのではないでしょか。仲間や周囲から認められたいという思いは自然なことです。しかし、その気持ちを、秩序を乱す形で表すことは間違っています。そうした行動では、本当の意味で誰かに認められることはありません。

あなたはすでに認められています

生野高校で学校生活を送っていること、日々の努力、家族や仲間との関わり…そのすべてがあなたの価値を証明しています。だから、無理に目立つ必要はありません。誰かを困らせる必要もありません。高校生活は楽しい反面、未熟さと向き合う場面もあります。しかし、その積み重ねが確実に成長につながっていくものです。

■ 駿台全国模試 結果より

10月に実施された第2回駿台全国模試(通称:ハイレベル模試)の結果が、11月20日よ

りWeb上で返却されています。今回の模試には、80期生のうち220名を超える生徒がチャレンジしました。この模試は、神戸大学合格をめざすなら「英・数・国総合偏差値50」が目安とされる、非常に難易度の高い記述模試です。ある程度の得点が取れた生徒は、国公立大学の個別試験(二次試験)に対応できる力を身につけていると考えてよいでしょう。

偏差値や判定の背景

「模試」とひとくくりにしても、母集団や受験層の違いによって偏差値や志望校判定は大きく変わります。

- ・ベネッセ進研模試(11月):約45万人
 - ・河合塾 第4回全統模試:約7万2,000人
 - ・駿台全国模試(今回):約3万1,000人
- 駿台全国模試の受験者層は、各都道府県トップ校の生徒が中心です。そのため、偏差値や判定が低めに出る傾向があります。結果に一喜一憂せず、ここからが本当のスタートだと考えてください。

今後の学習のポイント

英・数・国との3教科をバランスよく得点するため、次の点を確認しましょう。

- ・学習サイクルをしっかりと回せているか
- ・得意・不得意による偏りがないか
- ・自分の学習習慣を見直す必要があるか

模試の結果を、弱点を知り、改善するための材料として活用してください。

■ 後期中間考査 教室での自主学習のすすめ

一週間前の昨日から、教室で残って学習ができるよう、学年の先生が在校付添をしています。学習に気持ちを向かせるまでの時間が長い傾向にありませんか?「ダラダラせずに、パッとはじめる」は、「始めるのが遅かった」「(課題が)終わらなかった」と後悔しない一つの工夫です。